



2014FIM 世界選手権シリーズ第2戦

“コカ・コーラゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース第37回大会

三重県・鈴鹿サーキット

2014年7月25日（金）計時予選

猛暑の影響を受け予定が狂うもトップ10トライアル進出！

TOHO Racing with MORIWAKI として3年目の鈴鹿8耐チャレンジとなる2014年。エースの山口辰也を中心に、ST600クラスを戦う國川浩道、そのライバルの小林龍太が加わり今年も3名態勢で臨む。事前テストからマシンをセットアップし、7月25日（金）は公式予選が行われた。

朝方から猛烈な暑さに見舞われた鈴鹿サーキット。ピークで気温は37度、路面温度は63度まで上がり、否が応でもマシンやライダーに暑さが襲いかかる。この予想よりも路面温度が上がったことが影響し、予定が狂ってしまう。予選アタッカーの山口は、ソフト目のタイヤをチョイスしていたのだが、路面温度が上がったことでフィーリングが変わってしまう。それでもセッションが始まると真っ先にコースインし、タイムアタックに入ると2分09秒420をマークし、第2ライダーのセッションで4番手につける。國川、小林は、ユーズドタイヤで出ていき、決勝に向けたマシンセットを行い國川が2分11秒502、小林が2分10秒674をマーク。アベレージも上がっており手応えを感じていた。

7月26日（土）は、トップ10トライアルが行われる。一つでも上のグリッドを狙い全力でタイムアタックに臨む。

また、TOHO Racing clubからは、鈴鹿4時間耐久ロードレースに2チームがエントリー。同じく公式予選が行われ#104の喜井勝也/野近幸紀組が26番手、#014福間勇二/大田孝志組が45番手となった。決勝レースは、7月26日(土)9:00にスタートする。



第1ライダー 山口辰也

「暑さの影響でフィーリングが変わってしまい、思うようなタイムを出せずに終わってしまいました。辛うじてトップ10トライアルに進出できましたが不完全燃焼な予選になってしまいました。トップ10トライアルでいいタイムを出したいですね」



第2ライダー 國川浩道

「レーシングライダーとしてはタイムを出したい気持ちもありましたが、ボクと龍太くんは山口さんが作ったマシンに合わせて、なるべく速いペースでコンスタントに走るのが仕事です。」



第3ライダー 小林龍太

「決勝を見据えて、いろいろやりました。事前テストのときよりもタイムが出ませんでした、アベレージは上がってきているので、決勝でもコンスタントに走れるようにしたいですね」



株式会社 TOHO
TOHO Racing with MORIWAKI
担当：野口